

成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p>➤ 調査データの収集</p> <p>世界遺産の観光地化に関する基礎的研究（科研費基盤研究（C））のためのデータを収集した。この研究の目的は、世界遺産登録に伴う地域の観光地化がどのように住民のエンパワーメントへの手段となり得るかを探ることにある。2016年度に続き、今回は、日光市データ収集を実施し、住民約 660 名から回収ができた。</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿</p> <p>外国人街の観光地化に関する論文 2 件が受理された（<i>Journal of Sustainable Tourism</i>, <i>Journal of Tourism and Cultural Change</i>）。また、脱工業化に伴う観光地化がなされた場所（オーストラリア・ニューカッスルおよび群馬県大泉町）における地域住民の「場所」と「変化」に対する考えをまとめ、ディスカッションペーパー（地域政策学会）を執筆した。</p> <p>② 教育</p> <p>➤ オンラインによる小テストの実施</p> <p>Google Form を使った小テストを実施した。プリントアウトしたものも持参し、スマホなどが使えない、送信できないなどの場合に対応した。テスト時間を守るために、解答受付時間をあらかじめ制限して行った。採点時間の短縮および採点ミスの防止が主な目的だったが、それ以外にもテスト内で必要な写真などが見易いという利点にも気づくことができた。</p> <p>➤ アプリを利用した観光プロモーションの実施</p> <p>観光プロモーション論の一環で、群馬県をプロモーションするという課題において、Instagram の利用をした。これまでは、紙ベース（ポスター、カレンダーの作成）で実施してきたが、より広い人々にみてもらうためのツールとしてどのように使うかを議論、実践した。</p> <p>➤ 研究方法および論文執筆に関してリーフレットの作成</p> <p>演習 I において、研究とは何か、という基礎的な知識から始まり、研究方法、アンケート票作成方法、論文の執筆方法などを複数の章に分けて資料を作成し、前期半ばより、一章ずつ説明をし、最後にまとめてリーフレットにした。このリーフレットを元に、4 年生での卒論作成を進める予定である。</p> <p>➤ グループ研究および卒論のための研究の遂行、その他ゼミ活動</p> <p>演習 I では、昨年同様グループ研究に取り組み、3 グループそれぞれが、自ら選んだテーマに基づいた研究計画書の執筆、調査関係機関への協力依頼、調査の実施、報告書の完成までを終えた。卒論では、個々が選んだテーマに基づいて研究を実施した。3 年次に行ったグループ研究での経験を応用し、全員が学外でデータを収集し論文を仕上げる事ができた。また、例年通り学園祭で出店をし、売り上げ目標をたて、戦略的に販売することができた。</p> <p>➤ ディスカッション、プレゼンテーション、プロジェクトの実施</p> <p>各講義では毎回グループディスカッションを行い、学生が考え発言する能力を高めることができた。グループでのプレゼンテーションを行い、与えられた課題のなかで、リサーチをする能力を付けた。</p>	

2 その他の事項

IBM が主催する SPSS の講習会に 2 度参加し、今後の研究のための手法を身に付けた。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、今年度収集した日光でのデータに基づいて論文を執筆したい。教育面では、演習 II においては、就職活動と卒論執筆の両立できるよう学生を励ましていきたい。演習 I では、人数が例年より多いため、一人ひとりへの指導がおろそかにならないよう努めたい。また、基礎演習が始まるため、スムーズに演習 I へ移れるような教育を行いたい。講義においては、さらにオンラインツールの利用方法を工夫したい。学生が楽しみながら、かつ実践的な力を付けられるように努力したい。